Course number	U-LAS04 10001 LJ47				
Course title (and course title in English)	教育学Ⅰ Pedagogy I		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Human and Environmental Studies Professor,ISHIOKA MANABU	
Group	Humanities and Social Sciences	Field(Classification)	Pedagogy, Psychology and Sociology(Foundations)		
Language of instruction	Japanese	Old group	Group A	Number of credits	2
Number of weekly time blocks	1	Class style	Lecture (Face-to-face course)	Year/semesters	2024・First semester
Days and periods	Mon.3/Mon.5	Target year	All students	Eligible students	For all majors

[Overview and purpose of the course]

現代社会を生きるわれわれは、必ず何らかの「教育」に関わってきているため、教育に関する現象・問題に対して関心を抱く向きは多い。しかし、こうした初発の関心はしばしば自身の教育経験のみを拠りどころとしており、問題の本質を捉えそこなっている場合も少なくない。

歴史的観点から教育現象を考察することは、われわれが日常的に抱いている「教育」の概念を相対化し、教育現象の本質を的確に把握するうえで、大きな意義を有している。それぞれの時代・社会における「教育」のあり方が、いかなる社会的諸条件（物理的条件、社会秩序の構成原理、価値意識、等々）のもとで成立しているのかを知ることは、教育という営為を広い視野をもってとらえることを可能にし、ひいては現代社会における教育現象を洞察するうえでも、より深いレベルでの思索を可能なものとする。

本講義では、以上の問題意識に基づき、近代日本教育史の具体的事例の解説を通して、近代教育システムの特質とは何かを追究する。それを通して、教育を神聖視する見方を相対化し、広い視野から「教育」概念を捉えなおすことを目指す。

[Course objectives]

近代日本における教育の歴史を、政治・経済・文化的状況との関係性において把握し、幅広い視点から理解する。

教育に関わる諸問題を、歴史的・社会的視点から考察する能力を養う。

[Course schedule and contents)]

本講義では、明治期から1945（昭和20）年までの時期を対象として、以下の計画に基づき授業を進めていく。ただし、受講生の理解の状況によっては、変更を加えることがあり得る。

１．近代以前の教育、近代の教育【３週】

「近代社会」とはいかなる特質をもった社会であるのか。このセクションでは、まず現在の我々が拠り所とする社会の構成原理について概説し、その相対化を行う。それをふまえ、社会の構成原理の転換が「教育」という営みの意味をいかに変容させたのかについて、解説する。特に、近代以前の社会との比較を重点的に行う。

２．近代学校システムと民衆社会との軋轢（明治期）【２週】

明治期の日本社会において、「上からの」近代学校システム導入にどのような意図があったのか、それは民衆社会のありようといかなる齟齬を来しつつ、次第に定着していったのか。このセクションでは、これらの点について解説する。

Continue to 教育学Ⅰ(2)↓↓↓

３．「学歴社会」の勃興（世紀転換期）【２週】
　近代学校システムの普及・定着とともに形成されてきたのが、「学歴社会」である。なぜ学歴が重視されることとなったのか、また学歴の重要性は人々にとってどのように認識されるようになっていったのか。このセクションでは、これらの問題について解説する。

４．「家庭教育」という概念【２週】
　学校教育の定着とともに、「家庭教育」という概念が新たに登場する。現在の我々が思い描く「家庭教育」のありようとは、単なる「親から子への教育的働きかけ」という意味以上の含意があり、そこにはやはり近代社会特有の条件が関係している。こうした問題について、家族のあり方の変容との関連に注目しつつ、解説する。

５．男女別学体制【２週】
　戦前の日本における中等教育・高等教育は、ほぼ例外なく男女別学体制によって行なわれていた。そこにはいかなる社会的期待が反映されていたのか、またその体制がどのように社会全体のジェンダー秩序と関連していたのか。このセクションでは、これらの問題について解説する。

６．「進路問題」の誕生（1920～30年代）【２週】
　戦後高度成長期に本格化する教育の大衆化と進学競争激化へ連続する現象として、1920～30年代に社会問題化した進学や就職と教育に関わる問題について照準する。こうした「進路問題」がこの時期に浮上したことの背景について、広い視点から解説をする。

７．戦時体制と教育【１週】
　戦時体制への対応として、1930年代後半にはさまざまな学校教育上の改革が構想された。実際には実現しなかったものもあるが、その改革は一見すると戦時体制とは正反対のリベラルな教育思想の影響を受けている（合科教授、絶対評価など）。このことの歴史的・社会的意味について、戦後社会との連続性も含め解説する。

８．フィードバック【１週】
　フィードバックの方法は別途連絡する。

[Course requirements]

None

[Evaluation methods and policy]

　中間レポート（３０％）と学期末レポート（50%）を中心に、平常点（20%）を加味して成績評価を行う。
　レポートは到達目標の達成度に基づき評価する。
　なお、レポートの提出、授業の出席は必要条件であっても十分条件ではない。

[Textbooks]

Not used
資料としてプリントを配布する。

[References, etc.]

　（References, etc.）
Introduced during class

Continue to 教育学Ⅰ(3)↓↓↓

教育学Ⅰ(3)

[Study outside of class (preparation and review)]

人間あるいは社会の営みを広い視点からとらえることができるように、教育のみならずさまざまな社会・文化現象についての興味・関心をもってほしい。

[Other information (office hours, etc.)]

意見や質問を書いて提出してもらう機会をなるべく多く設けるので、授業に対し主体的に取り組むことを期待する。